

■ コレクション (Typical Choice)

隈本文庫



漢学者 江崎 濟



隈本勝三郎



「隈本文庫」

隈本家は代々漢学者としての名家で、分家・二代目 隈本勝三郎(明治・大正・昭和にわたり黒木町長を務める)は、漢学者 江崎 濟が開いた私塾・黒木塾[後の北内義塾]の門下生として学び、920冊余りの漢籍が「隈本文庫」として残されています。

この塾から石橋忍月、日比翁助(三越創始者)、牛島謹爾(ポテト王) 仁田原重行(陸軍大将)などの優れた人材を輩出しました。

松浦家文書

黒木町北木屋に残る旧庄屋松浦家・土倉に保存されていた近世古文書354点を平成7年に寄贈を受けたものです。久留米藩体制下の農民層の生活事情を、つぶさに窺うことができます。(福岡県郷土資料調査済)



「松浦家文書」

黒木高専学校寄託考古資料



「田中幸夫コレクション」



田中幸夫 [1901~1982]

県立黒木高等学校所蔵の約1000点にのぼる考古資料とその目録「郷土資料台帳」を、平成11年2月に寄託を受けたものです。

この資料群は、地域の文化財保護活動に造詣のあった同校第11代校長・田中幸夫が、在任中の昭和28年から31年にかけて、在校生徒を中心に地域住民らとともに、町内外の旧石器時代から古墳時代の考古遺物を表面採集し、整理したものです。

■ 利用案内

- 開館時間 午前9時~午後5時
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月28日~1月4日)
- 入館料 無料
- 解説案内 事務室へお申し込みください
- 駐車場 普通車30台(大型バス駐車可)

■ 交通案内



アクセス

鹿児島本線 JR羽犬塚駅より約18Km
堀川バス 羽犬塚乗車、黒木下車 約55分
九州自動車道 八女ICより約16Km 約35分



学びの館

旧隈本邸
石橋忍月文学資料館
収蔵文化財展示場

☎ 834-1221 福岡県八女郡黒木町大字今1053
TEL/0943-42-1982

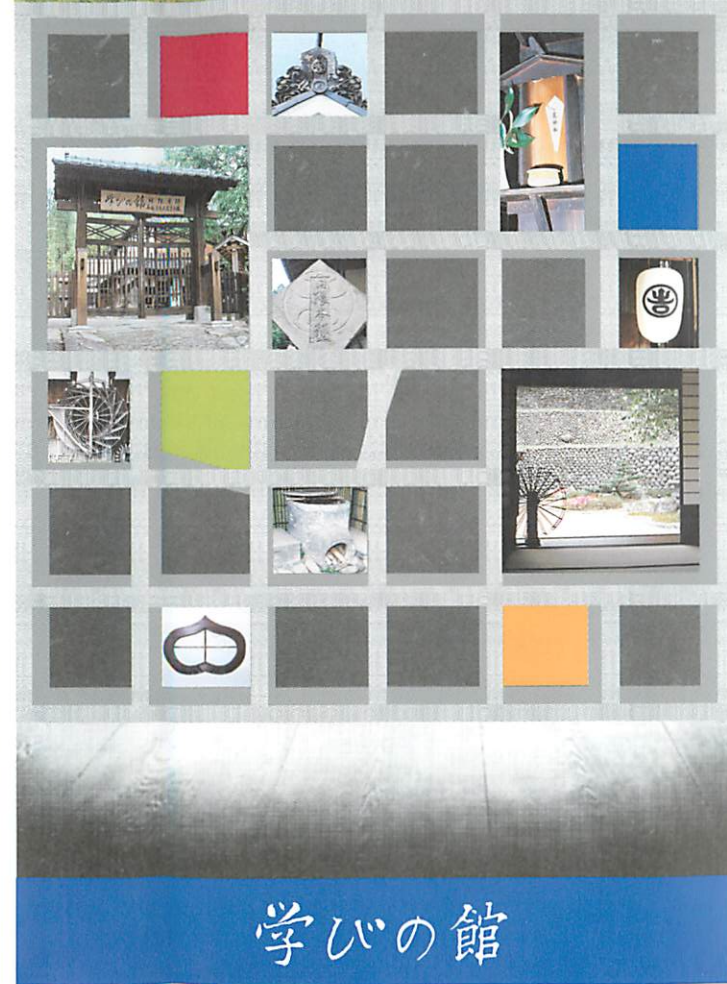
編集・発行

黒木町教育委員会 生涯学習課
☎ 834-1292 福岡県八女郡黒木町大字桑原244-2
TEL/0943-42-0297 (直通)
FAX/0943-42-4650

黒木町ホームページ <http://www.kttnet.co.jp/kurogi>

2002(平成14)年3月29日 初版第1刷 ©

Printed in Japan



学びの館

旧隈本邸
石橋忍月文学資料館
収蔵文化財展示場

福岡県
黒木町

■ 収蔵文化財展示場



収蔵文化財展示場(外観)

近年、文化財の公開と活用を積極的に推進していく動きが高まるなか、適切な保存と管理が求められています。

このことを踏まえ、町に緑りのある古文書などの歴史的史料を収集し良好な状態で保存・公開する施設として建設されたものです。

建物本体は、木造二階建瓦葺、建築面積・約102㎡で平成10年3月に竣工、文化財への影響を最小限に抑えるため1年間の曝涼期間をおき、同11年4月に開館しました。 郵政省簡易保険融資施設

設備概要



◀特別収蔵室

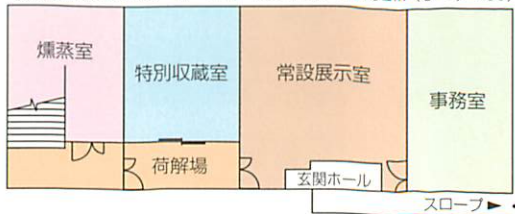
主に近世の古文書・近代議会議事録、石橋忍月関係資料を収蔵しています。湿度の急激な変化により劣化が進みやすいため、調湿機能付の移動書架を導入。内壁は杉板張りとし室内は「変温恒湿」の弱酸性に保たれていません。

▶常設展示室

黒木町管内に所在する指定文化財について概観し、所蔵する旧石器時代から近代までの代表的文化財の一部を展示解説しています。4タイプの展示ケースにより、多様な形態の資料が公開可能となりました。



収蔵文化財展示場 1F平面 建築面積・約102㎡(S≒1/250)



■ 石橋忍月文学資料館

明治の先駆的な文芸評論家として、森 鷗外と「舞姫論争」を展開し、文壇で活躍した旧上妻郡湯辺田村(現・黒木町)出身の石橋忍月の生家を移築復元したものです。建物本体は、木造二階建茅葺・鉋屋(鉄板葺)、建築面積・約138㎡で、石橋家の協力を得て平成5年6月に開館しました。

忍月と隈本勝三郎は、少年時代に黒木塾で学んだ塾友仲間で、勝三郎の旧邸内に生家を移築したのもその故縁です。

石橋忍月文学資料館(外観)



石橋忍月[1865~1926]



石橋忍月略年譜

- 慶応元(1865)年 旧上妻郡湯辺田村(現・黒木町)で父・茂、母・フクの三男として生まれる 本名・友吉[ともきち]
- 慶応2(1866)年 叔父 石橋養元の養子となる
- 明治6(1873)年 このころ黒木小学校入学、黒木塾入塾
- 明治20(1887)年 東京大学法科大学
- 明治23(1890)年 鷗外と「舞姫論争」を展開する
- 明治24(1891)年 大学を卒業し内務省入省、翌年辞す
- 明治26(1893)年 金沢へ赴き「北国新聞」編集顧問となる
- 明治28(1895)年 金沢で弁護士を開業し、横山 翠と結婚
- 明治32(1899)年 長崎地方裁判所判事となる
- 以後、弁護士・県会議員などを歴任する
- 大正15(1926)年 長崎市銅座町にて病没 享年61歳
- 八女市西古松町の浄土宗「無量寿院」に葬る
- 戒名・清閑院湛誉松風忍月居士

文学の系譜は脈々と

忍月の三男で文芸評論家の山本健吉[本名・石橋貞吉(文化勲章受章)]の参考資料を併せて展示しています。

また、短歌雑誌「やまなみ」を創刊し、黒木町で作歌活動を続けた歌人・菊池 剣、小説家・安部龍太郎(剣持出身)、女優・黒木 瞳(黒木出身)の著作なども紹介しています。



山本健吉[1907~1988]



菊池 剣[1893~1977]



常設展示室

■ 旧隈本邸 [黒木町指定有形文化財(建造物)]



旧隈本邸(外観)

旧隈本邸は、江戸末期に旧上妻郡八幡村新庄(現・八女市)の隈本家より旧上妻郡今村(現・黒木町)に分家した、初代・隈本儀三郎によって文久3(1863)年に建築された民家です。[鬼瓦籠書より]

明治16(1883)年に一部増築され、現在の構えになりました。敷地面積・約2,276㎡、建築面積・約295㎡、部屋数16、畳数95枚、雨戸64枚を擁する豪壮な住宅で、柱と梁は杉と松の大材で組み上げ、造作には、檜・樟・黒柿などを多用しています。

また、戸締りに「心張り棒仕掛」や、「落し鍵」、小窓の付いた「襖戸」、「隠し階段」など意匠を凝らした造りがみられます。

この家屋を平成2年7月に譲り受け、修復工事を経て平成4年4月に開館しました。邸内入口には、矢部川の転石を巧みに積み上げた玉石積と、平石の小口を敷き詰めた石畳の造形が対照的です。

この民家は、近世末から近代にかけての黒木町の代表的な建造物として、平成5年9月に町指定有形文化財の指定を受けました。

伝統のかたち



▲和小屋による小屋組(屋根裏)



▼竈まわり



▲明治時代の建築由緒図



▼玉石積と石畳